

佳作

## 会いたかったよ

鹿児島県 鹿児島市立川上小学校二年 西原 綺椰

「なんでも言ってるね。おてつだいをがんばるよ。」わたしのお母さんのおなかの中には、赤ちゃんがいました。お母さんは、つわりがひどくて、いつもぐあいがるそうでした。だからわたしは、二さいのいもうとのはるちゃんといっしょにりょうりやおふろそうじのおてつだいをすることにしました。

お母さんは、

「ありがとう。すぐたすかるよ。」  
とにっこりしながら言いました。わたしは、すぐうれしくてもっとがんばろうという気もちになりました。

そして、お母さんが赤ちゃんをむためにすこし早めに入りました。その間、お父さんとわたしはるちゃんとおばちゃんの四人でせいかつをしました。お母さんがいなくて、はるちゃんは、いつも夜

になるとよくないていました。わたしもいっしょになきたかったけれど、お姉ちゃんだからがまんしていました。さびしいけれど、「お母さんも赤ちゃんもがんばっているからなかないぞ」と思ったからです。さびしく思わないために、まい日お母さんに学校でがんばっていること、いえのことなどを手がみにかいてお父さんにもっていつてもらいました。

赤ちゃんは、よていよりもすぐはやくうまれて、入いんすることになりました。こどもはびょういんにおみまいにいけないので、お父さんやお母さんがとってきたしゃしんやビデオを見ました。するとわたしは思っていた赤ちゃんとはちがうようすが目に入ってきました。たくさんのくだや点てきにつながれて、すぐ小さかったからです。かわいそうだなと思っているとお母さんが、

「赤ちゃんは、小さくうまれたけれど、一日一日大きくなっていくよ。だから、赤ちゃんをむかえるじゅんびをしようね。」

と言いました。わたしは、がんばっている赤ちゃんがたいいんするまでに、なにかできることはないかなど考えました。そして考えついたのは、赤ちゃんの名前を考えること、おりがみでべビーベッドのま

わりにかわいいかざりつけをすること、赤ちゃんのバスタオルをじゅんびすることでした。赤ちゃんの名前は、かぞくで話しあって、ひめちゃんときめました。ベッドのかざりつけには、ピンクや青などのおりがみで花や雪のけっしょうの形をつくって、ひめちゃんが見えるようにかざりました。バスタオルは、かわいいようせいのがらにしました。わたしは、ひめちゃんよろこぶかおを思いうかべながらじゅんびしました。

そして、二か月たって、ひめちゃんがたいいんする日がきました。お父さんとお母さんがびょういんから、ひめちゃんをいえにつれてかえってきました。「おぎゃあ。おぎゃあ。」

ひめちゃんの元気なこえがいえ中にひびきわたりました。やっと会えてわたしもとてもうれしくなりました。かぞくがふえて、これからのまい日がとてもたのしみです。